

■今月の特選句

2014年6月号

番組の途中ですがと春の地震

飛田正勝

「番組を中断したり春の地震」ということですね。地震を「ない」と読む。
「揺れてゐる途中の一句春の地震」「地震の句詠んだけど自信なし」

魚では唯一学歴あり目高

花岡直樹

「列逸れて目高の学校中退も」「勉強は泳ぐことだけ目高たち」「学歴を誇示したりせず目高たち」「先生が先頭だろう目高たち」

スカイツリー隠れモデルの葱坊主

山下正純

「デザインを盗用されし葱坊主」だね。結果的に似てるから「エッフェル塔のそっくりさんが東京に」。「俳句にも隠れモデルや類想句」。まあいいか。

葉桜やだめでもともと発毛剤

小林英昭

「葉桜にあやかる髪の毛のしげり結果的には力及ばず」「枯れ枝に薬をかけて無駄と知る」「駄目元の語源確認出来ました」

北窓を開ければ向かひは南窓

津田このみ

滑稽でナンセンスのセンスありますね。住宅密集地を詠むならば、「北窓をあければ向かひはただの壁」「北窓の句の出来難い兎小屋」

待つ人へ手を挙げて来るサングラス

氏家頼一

やーやー、どーも、どーも。声の聞こえてくるような句。遅刻でしょうか。
「言ひ訳を考えてゐるサングラス」「ワンパターンよ言ひ訳に渋滞は」

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

垂れ込める梅雨雲支へクレーン車

・・・酸性雨なら先端溶ける

高橋素子

山ガール三人寄れば山笑ふ

・・・山爺には仏頂面か

白井道義

やどかりになるよかりかりしすぎたら

・・・人の借家に諍ひ絶えず

山本 賜

ステテコや臍に持つ傷見え隠れ

・・・ヒ首などは無いんだろうね

都吐夢

蝌蚪ばかりやたらに増えて過疎の村

・・・近い将来蛙天国

横山喜三郎

蝸牛や明日できること今日はせず

・・・スペイン人も似たことを言ふ

下嶋四万歩

ひっそりと生きて角だす蝸牛

・・・移動の可能なる家に住み

井口夏子

九条の許容範囲の武具飾る

・・・許容範囲の拡大怖し

伊地知寛

春の風スカートめくる上手かな

・・・夏秋冬の風は不得手か

金澤 健

血糖値気にはなれども桜餅

・・・ひとつぐらいと自分を許す

佐野萬里子

くびれなき姿態のダンス鯉のぼり
・・・鯉はもともとずん胴なのよ

久我正明

時折のイナバウアーや畑を打つ
・・・金のメダルを進呈したい

柳 紅生

数々の自販機出合ふ遍路かな
・・・お接待てふ自販機喋る

松尾軍治

■今月の滑稽句

	遠き日の若さと馬鹿さしゃぼん玉 幸せの分け前はなしかやの外	青木輝子 青木輝子 青木輝子
【佳作】	捨てもせず着もせず古りし更衣	
	ただ単に爛面倒と冷し酒 囀やじゅげむじゅげむの鳥もみて	青山桂一 青山桂一 青山桂一
【佳作】	天向かふ神楽鈴なり花枇杷は	
	溜息を共に笑って散るさくら 思い出に浸り落ちつく若葉かな	秋月裕子 秋月裕子 秋月裕子
【佳作】	夏はじめ青が競える空と海	
	蒲公英の絮飛ぶときに深呼吸 転勤す庭のブランコそのままに	麻生やよひ 麻生やよひ 麻生やよひ
【佳作】	地にあれど気位高し落椿	
	花万朶花咲翁はひと休み 酒断ちの友に気兼ねの花の宴	有吉堅二 有吉堅二 有吉堅二
【佳作】	裳裾なぶる風を気にする糸桜	
	反りかえりウエスト自慢の菖蒲かな アジサイや空気を読んで顔を変え	粟倉健二 粟倉健二 粟倉健二
【佳作】	花屋です着物で挨拶鉄仙花	
	みどり児の喉の奥まで五月来ぬ 行水の無駄毛豊かに農婦かな	飯塚ひろし 飯塚ひろし 飯塚ひろし
【佳作】	菖蒲の湯いの一歩に女の子	
	鯉のぼりビルの谷間に尾をたらず 走りだす足はたしかや羽抜鶏	井口夏子 井口夏子
【佳作】		
	花筏の一ひら蟻の舟遊び 塞翁が馬となるかや豚児の恋	池田亮二 池田亮二
【佳作】		
	病院食蓋開け恋ふる冷奴 俎上の鯉錦の御旗纏い飛ぶ	石川セツコ 石川セツコ
【佳作】		
	本所からバスで参詣義士祭 TPP俺も参加と種を蒔く	伊地知寛 伊地知寛
【佳作】		
	薪能有限会社なる一座 春眠や死んでいるかと期待され	伊藤浩睦 伊藤浩睦

- | | | |
|------|--------------------|-------|
| 【佳作】 | 不適切な師弟関係知る柳 | 伊藤浩睦 |
| | よく笑ふ人のみで桜しべ降る | 稲沢進一 |
| | ゆつくりと背泳ぎ空は雲浮かべ | 稲沢進一 |
| 【佳作】 | 数学と物理は苦手水を打つ | 稲沢進一 |
| | 古希の友カーネーション手母白寿 | 井野ひろみ |
| 【佳作】 | 増税後筭の皮惜しみ剥ぐ | 井野ひろみ |
| | 花粉症春の喜び中ぐらい | 入江澄泉 |
| | 児ら散歩土筆の束の風情かな | 入江澄泉 |
| 【佳作】 | 春愁や心中秋の心かな | 入江澄泉 |
| | 愛無くて花いっぱいハナミズキ | 上山美穂 |
| 【佳作】 | 剪定のバリカン木々をイケメンに | 上山美穂 |
| | しゃんとしないと猫背になるよ鈴蘭さん | 上山美穂 |
| 【佳作】 | 尺蠖の突端に来て直立す | 氏家頼一 |
| | 青嵐少なき髪を乱しけり | 氏家頼一 |
| | 寺の庫裏新樹に手拭干されみる | 梅岡菊子 |
| | 鳥数多とませ暮る新樹かな | 梅岡菊子 |
| 【佳作】 | 猫の尾を遊ばせ活ける夏柳 | 梅岡菊子 |
| | 甚平や世渡り下手の齢重ね | 越前春生 |
| | 水羊羹話し上手は母ゆずり | 越前春生 |
| | 蟻地獄またぎて女振り向かず | 越前春生 |
| 【佳作】 | ネクタイを外して今朝の更衣 | 奥脇弘久 |
| | 軒菖蒲人つ子ひとり見当らず | 奥脇弘久 |
| | 十葉や頼みもせぬに蔓延りて | 奥脇弘久 |
| 【佳作】 | 砂時計反して春を惜みけり | 笠 政人 |
| | 春疾風シャッター通り歯ざしりす | 笠 政人 |
| | 四苦八苦揚句の凡句捻れ花 | 笠 政人 |
| 【佳作】 | 蟻困む自死やも知れぬゴキブリを | 加藤澄子 |
| | 護摩法要の煙に若葉燻さるる | 加藤澄子 |
| | 花藤の房に覗かれぼて茶席 | 加藤澄子 |
| 【佳作】 | あるだけの茶菓子を出して客遅日 | 加藤 賢 |
| | 春灯の華やぐ闇を抱き合へる | 加藤 賢 |
| | 黄沙降る街のどこより吾が新車 | 加藤 賢 |

【佳作】	花祭り決まったポーズのお釈迦さま 早春や子規の銅像旅立つ日 桜花賞ハーブスターのごぼう抜き	門屋 定 門屋 定 門屋 定
【佳作】	カレンダーまくり上げつつ五月来る 朝寝して夢の続きの青い鳥	金澤 健 金澤 健
【佳作】	遠足の先生生徒みなリュック 喪服着て遠足の子等と乗り合わず 季語と云う重たき物を薫風に	川島智子 川島智子 川島智子
【佳作】	黄金週間スマホひとつを友として すててこやほとけ頼みの暮らし向き 晴耕も雨読も嫌ひ五月来る	菅野あたる 菅野あたる 菅野あたる
【佳作】	論文に難くせつける青嵐 懐の緩む三月来たりなば	久我正明 久我正明
【佳作】	磯遊び木端で作る宇宙船 麦わらで吹けばセピアの石鹼玉 猫柳とことん遊び呆けたし	工藤泰子 工藤泰子 工藤泰子
【佳作】	義理ギリで参加決断花宴 メーデーやスピーカーだけの行進に	黒田忠一 黒田忠一
【佳作】	ポチの为一〇八〇円の鯉のぼり クリクリと自転車こぐ尻夏来たる 足裏に覗く魚の目草萌ゆる	小泉花子 小泉花子 小泉花子
【佳作】	艶本のそかばかり紙魚つまみ食ひ 子燕の顔中口にしてねだる	小林英昭 小林英昭
【佳作】	暗算で呆け防止をと消費税 応援のファンサポーターブースター 若き日のやさしい妻は今どこに	齋藤八兵衛 齋藤八兵衛 齋藤八兵衛
【佳作】	春眠に永眠のさそいありにけり 戦争を知らない議員例大祭 私はそこに居ません靖国祭	酒井鹿洋 酒井鹿洋 酒井鹿洋
【佳作】	木に残る檸檬の枝に芽(はなめ)あり 田植時早乙女の姿見当らず	佐野萬里子 佐野萬里子
【佳作】	筍の盗掘人に出来を訊く	下嶋四万歩

	籠枕高くして寝るひとり旅	下嶋四万歩
	仮釈放を得て泳ぎ出す鯉幟 柏餅喰ふ時妻の大人しく 栄転を僻地に迎ふ春の雪	壽命秀次 壽命秀次 壽命秀次
【佳作】	今年また暦通りにつばめ来る 定員をはるかに越えしつばめの巢	白井道義 白井道義
【佳作】	山笑ひかき玉そばを一人たべ Yシャツがストライプ型春思かな 風光る快速日々のスニーカー	鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也
【佳作】	悪い癖器量は母似子供の日 長居客新茶で茶漬食いにけり 鯉のぼり骨抜きにして風見鶏	高田敏男 高田敏男 高田敏男
【佳作】	高層に住みて足下に鯉幟 母の母その母の母も母の日や 武者人形買った日の吾子今の吾子	高橋きのこ 高橋きのこ 高橋きのこ
【佳作】	馴れ初めをくどくど語る甚平よ 魂消(たまげ)たりベートーベンの更衣	高橋素子 高橋素子
【佳作】	音のなき波紋を拾ふあめんぼう シャボン玉おどる光につれてかれ 五月晴れどこにもいけぬ観覧車	田中章子 田中章子 田中章子
【佳作】	春の夢忘るまじの暗示したる 花の姫路城訪ねるなりにけり 花冷や団塊世代叩かれる	田中 勇 田中 勇 田中 勇
【佳作】	観るだけの旅とはなりて春炬燵 喜雨来る遣手ババアも春炬燵 畑に立つ吾は王侯よ百千鳥	田中早苗 田中早苗 田中早苗
【佳作】	四月馬鹿騙してくれる人もなし 海髪(うご)のりを冠りてにたり潮仏 目借時色目を貸してやりにけり	田村米生 田村米生 田村米生
【佳作】	緋牡丹の衣裳脱ぐごと散りにけり たけのこと言ふ生活を知らぬ孫	津田このみ 津田このみ
	法界坊サービス精神風薫る	土屋泰山

【佳作】	花曇太平洋の龍吠える ぼんぼんを手に持っている八重桜	土屋泰山 土屋泰山
【佳作】	コンビニで要らぬ物買う夕立かな 国際化スプーンで食う冷奴	都吐夢 都吐夢
【佳作】	移されて妻に移せり春の風邪 変声期猫の恋見る外厠	飛田正勝 飛田正勝
【佳作】	八つ橋の蛇の目を覗く梅雨つばめ 戦ふを知らぬ角振る蝸牛 異国より嫁ぎ来し人麦刈りて	永島董玉 永島董玉 永島董玉
【佳作】	はいはいが上手に出来て青蛙 来世ではきつと兄弟墓 逢引のつれなし作る河鹿宿	西をさむ 西をさむ 西をさむ
【佳作】	6月や汚き季語の多きこと 豊漁のしらす今年は捕るな捕るな	花岡直樹 花岡直樹
【佳作】	照り降りに右往左往の蟻地獄 子へ走る両手にアイスクリーム持ち ぬけぬけとサルビアほどの嘘をつき	原田 曄 原田 曄 原田 曄
【佳作】	鯉幟後ろ姿を見せ泳ぐ よく見れば和毛ほどなる植田かな 朧夜の羊数へて眠られず	ひがし愛 ひがし愛 ひがし愛
【佳作】	花見弁当鳩居並びて殿気取り 茎立つや想定外の長生きに 誤字一つ掲げて畑のトマト売	久松久子 久松久子 久松久子
【佳作】	白鳥の五羽の生れて風薫る おかつばも三つ編もいた花みかん 葉桜の仕事や飽かず揺ること	日根野聖子 日根野聖子 日根野聖子
【佳作】	梁のねずみ子猫首輪の鈴を聞く シャボン玉中に虹入れ放ちけり 初夏や笹舟一寸法師乗す	藤岡蒼樹 藤岡蒼樹 藤岡蒼樹
【佳作】	口紅は薔薇の花びらおままごと 幸不幸決めるは自分苺摘む 連休の好天続く儲けもの	藤原セツ子 藤原セツ子 藤原セツ子

	麦の穂を折りつ啄み群れ雀 吾を視る眼のつややかや今年猫 触れたかも知れぬ山椒の芽の香る	松井寿子 松井寿子 松井寿子
【佳作】	恋成りし後春泥の通せん坊 蟬鳴きぬ深夜の電話ボックスで 時の日や目くばせばかりする女将	松井まさし 松井まさし 松井まさし
【佳作】	後悔は時間の浪費夏近し 股旅の映画の如き夕焼かな	松尾軍治 松尾軍治
【佳作】	春の夢衆生を騙す乙女あり ぽつくりが真面目な話題花の下 花の山袖振り合ふもみな優し	丸山絃一 丸山絃一 丸山絃一
【佳作】	心太さとう正油かけが好き トランペット春光返して腹の上 歓声あがる課外授業の花吹雪	三橋百笑 三橋百笑 三橋百笑
【佳作】	口癖は大器晩成独活の花 山女釣る先は熊笹ばかりなる したたかな人のハンカチ真白なる	宮森 輝 宮森 輝 宮森 輝
【佳作】	百羅漢百の哀樂夏来たる 切れ凧や片道切符の旅へいざ 立葵かつて地球は広がった	百千草 百千草 百千草
【佳作】	カロリーは低いが人気 子供の日 てふてふのふらふら飛行低血圧 夫から一番咲きの赤い薔薇	森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子
【佳作】	早起きを明日あしたと又あした せせらぎの河原の子等の声のはる 爺いだが叶わぬ恋の多気のぼり	森 要 森 要 森 要
【佳作】	聖五月大悪人であろうとも 塩味となりけり島の薫風は メモ帳のいよいよ白く夏来る	八木 健 八木 健 八木 健
【佳作】	町名に緑のありき緑の日 とりあへず最初はグーだビール干す 暮れ泥む薄暮におはす夏の暮れ	八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑
【佳作】	トイレをばオアシスにして新社員	柳 紅生

	涼しさやトイレ話の漏れどころ	柳 紅生
【佳作】	初夏の朝すっぴんぴんの肌がよく 膝折れて初夏の突風あゝしんど 意思疎通できぬ先輩五月病	柳澤京子 柳澤京子 柳澤京子
【佳作】	アンテナを立て交信の葱坊主 パラボラに光満たすや泰山木	山下正純 山下正純
【佳作】	釣り上げし大桜鯛持て余す 拾いては竹垣にませ落椿 葉を葉桜にして老大樹	山本けい子 山本けい子 山本けい子
【佳作】	浮世絵を出ることならず金魚たち 夏草や隠し持つ刃でわれを切る	山本 賜 山本 賜
【佳作】	藤の房だらり青春過ぎてをり パチンコのパの字の上に蔦茂る	横山喜三郎 横山喜三郎
【佳作】	モンゴルの顔ばかり殖ゆ五月場所 敷石に庭下駄ひとつ春落葉 みほとけの膚艶やかに若葉冷	渡辺さだを 渡辺さだを 渡辺さだを